# 「脾温存尾側膵切除術後長期経過症例における胃静脈瘤発生リスク因子」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

**研究期間：2022 年　10 月　12 日　～　2023 年　12 月　31 日**

〔研究課題〕

脾温存尾側膵切除術後長期経過症例における胃静脈瘤発生リスク因子の検討
-国内多施設共同研究-

〔研究目的〕

脾臓は免疫機能や濾過機能を有しており、脾臓を摘出すると重症感染症や、後々に悪性疾患を引き起こすリスクが高くなると言われています。それ故、膵体尾部に発生した良性疾患や低悪性度腫瘍に対しては脾温存尾側膵切除術が行われることが多くなりました。脾温存尾側膵切除術では、脾動静脈を温存する術式と切離する術式があります。脾静脈切離に伴う胃静脈瘤を引き起こすことがあります。また、脾静脈温存は胃静脈瘤の発生リスクが軽減するとされていますが、時に脾静脈血栓を起こすことがあり、それに伴い胃静脈瘤を起こすことがあります。胃静脈瘤は消化管出血の原因となり得ますが、脾温存尾側膵切除術症例を長期にフォローした大規模な症例集積報告はなく、長期的な胃静脈瘤発生のリスク因子に関しては明らかではありません。そこで、本研究では、脾温存尾側膵切除術長期経過症例における胃静脈瘤発生のリスク因子を検証します。

〔研究意義〕

この研究により、脾温存尾側膵切除術症例における周術期の長期的な安全対策が可能になると考えます。

〔対象・研究方法〕

2011 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までに、日本膵切研究会参加施設にて脾温存尾側膵切除術を施行した患者様。
電子カルテより脾温存尾側膵切除術症例を抽出し登録します。登録患者様の臨床データおよび画像データ（詳細は観察・検査項目を参照）を電子カルテより収集します。

〔研究機関名〕

研究代表機関：滋賀医科大学

研究責任者：谷　眞至

医学系研究科　外科学講座　消化器・乳腺・一般　教授

研究分担機関：帝京大学医学部

〔個人情報の取り扱い〕

各研究参加施設で対照表を作成し、加工を施した上で症例報告書を作成します。データを入力する際はユーザーIDとパスワード設定のされたPCで行い、入力したデータファイルは新たなパスワードを設定します。データは作成した対照表で管理し、各参加施設の方針に従い適切に保管・管理します。症例報告書は参加施設からCD-Rで滋賀医科大学外科学講座へ郵送します。対照表の提出はしません。
資料（文書 、数値データ、画像など）の保存期間は、原則として研究終了後 10 年間とします。
保管期間以降にデータ等の削除を行います。

**対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。**

ご協力よろしくお願い申し上げます。

**問 い 合 わ せ 先**

研究責任者:氏名　　三澤健之　　職名　教授
研究分担者:氏名　　澁谷　誠　　職名　助教
所属:　帝京大学医学部　外科学講座
住所:〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1　TEL:03-3964-1211(代表)